

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992700054		
法人名	医療法人 弘真会		
事業所名	グループホーム 尊徳		
所在地	栃木県真岡市久下田956-4		
自己評価作成日	平成23年12月28日	評価結果市町村受理日	平成24年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営が医療法人であり、病院が近隣にある為、医療機関との連携も取りやすく、訪問看護の看護師とは24時間連絡が取れ、日々の健康管理には万全を期しています。・入居者個々の得意とするものを活かして役割作りをすることで、生活意欲の向上に繋げられるよう支援しています。・外出の機会を多く取り入れ、同グループ内の施設や市の行事などにも積極的に参加しています。年に一度の遠方への遠足や忘年会には、ご家族も参加して頂き交流を深めています。・家庭的な雰囲気大切に「ゆったり楽しく安心して」生活できるホームを目指しています。常に清潔を心がけ、必ず朝夕2回の掃除を行っています。職員は明るく生き生きと皆様の支援に携わっており、いつも笑いの絶えない施設です。今後も常に入居者様を第一に考え、入居者様やご家族様に安心して頂けるよう、ご意見もどんどん受け入

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、法人母体である医療機関や介護老人福祉施設、訪問看護ステーションが近隣に位置し、医療面でのバックアップ体制が充実していることから、利用者、家族等の安全、安心につながっている。利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等、これまでの暮らしの把握に努め、家族や地域の力を借りながら利用者がより良く暮らせる支援に力を入れている。管理者をはじめ全職員が、家庭的で温かな雰囲気を大切に支援を行うと同時に、“利用者と生活を共にするパートナー”として喜怒哀楽を共有しながら信頼関係を築いている。また、日常的に家族等の訪問が多く、家族等から出された率直な意見や要望等を事業所の運営やサービスの向上に活かしている。地域との交流についても、災害時における地域からの協力体制の基盤を築くため、地域全体の防災訓練や自治会の会議に積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症高齢者が生きがいを持って生活できるように 安心で安全なホッとできる施設を目指します」の理念をホーム内に掲示することで、全スタッフで共有し、理念に即した生活が送れるように勤めている。	理念と行動指針に基づき、事業所全体の質の確保に取り組んでいる。また、日々の実践が理念・行動指針に基づいたものになるよう、全職員が共に意識しながら話し合い、日常的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等の行事に積極的に参加したり、近隣の幼稚園児の訪問発表会等の受け入れ、高校生の訪問や生け花のボランティアも受け入れている。床屋や買い物は近所の店舗を利用し、地域住民との交流に努めている。	地域のお祭りをはじめ季節行事、地域全体の防災訓練等に積極的に参加したり、七夕や敬老会などの行事には近隣の幼稚園児の訪問も継続して受け入れている。また、日常的にも近所の床屋や商店を利用しながら、地元の人々と交流することに努めている。	利用者が地域とつながりながら暮らしていくことを支えていく基盤ができていることは評価できる。今後は、共に暮らす地域住民の一員として、地域から必要とされる情報発信やホームとしての役割を担い、事業所が地域の中に浸透していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期会議内で地域の行事参加後の報告及び意見交換は行っているものの、現在のところ地域に対しての働きかけは積極的に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、話し合いの場を設け、入居者の現状や事業、行事報告を行うことができている。また、市の職員や民生委員の意見を参考にサービス向上に活かしている。	利用者、市職員、民生委員の出席のもと、2か月に1回開催している。会議では、報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じて率直な意見をもらい、それをサービス向上に具体的に活かしている。	会議は、参加メンバーを固定することなく、幅広い立場の人が参加する場として、多くの家族や自治会長、消防および警察職員等の参加を積極的に呼びかけ、会議の意義や役割を十分に理解したうえで、サービス向上につながる場となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の担当者へ入居者状況を報告している他、入退院や入退所時にも随時報告をしている。地域包括課からはGH対象のケースがあった場合に問い合わせをもらっており、対応が可能であるか検討している。	市担当者とは毎月の状況報告や認定、更新の手続きのほかに、事故報告などの課題解決を図るための双方向な協働関係ができている。市担当職員が気軽にホームに立ち寄ってくれたり、メールでのやり取りをとって積極的な情報提供と情報の共有による連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、実際に身体拘束に該当するようなケアも行っていない。日中は玄関の施錠もしていない。また、マニュアルを常備し職員の勉強会も実施している。	日中、鍵をかけられ外に出られない状態で暮らすことによって、心理的な不安、閉塞感、家族や地域の人々にもたらす印象等のデメリットを全職員が認識し、利用者の動きやサインを察知しながら寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含め、虐待につながる行為が発生しないよう常に管理者は目配りしている。また、日頃から心理的虐待等にも注意し、言葉遣いやケアの中でも個々の尊厳が保てるように努めている。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度についての研修に参加しており、個々の必要性について検討し、必要な入居者にはそれらを活用できるよう情報把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書や運営方針を説明し、入居者や家族に理解し納得して頂いた後、契約を結ぶようにしている。 また、契約時にはホーム側の意向、入居者や家族の要望も聞き入れ、お互いに理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が苦情や要望を表出しやすいよう対応窓口を設置すると共に、ホーム内にご意見箱を設置し、無記名でも意見や要望を表出しやすい環境作りに努めている。 また、苦情や要望は、全職員で共有し対応の徹底を図っている。	運営推進会議に利用者が気軽に参加できる機会を作っている。また、日常的に家族と職員が顔の見える関係を作り、率直な意見や不満、苦情を表しやすい環境作りに努めている。訪問時も家族の来所があり、丁寧に個別の対応をしている様子が見えがえた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では、業務の見直し等を行っており、全職員が自由に意見を述べられる環境を作っている。また、管理者は、現場に入り、他職員と同様の業務をこなす事で、実情の把握に努めている。	担当職員制を導入していることから、利用者の状況や日々のサービスの実情は把握ができています。現場の職員の意見を十分に聴き、活かせる環境ができています。管理者は、事業所の運営や業務改善に関しても、職員会議はもとより日々の業務の中で確認し合いながら、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の今後の資格取得希望や、提案に対し柔軟に受け入れができるよう努めている。今後は人事考課制度の導入を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて、内部研修の他、外部研修に参加する機会を設けている。また、経験の長い職員が相談相手になり、助言やアドバイスをを行いレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にショートステイ、デイサービスがあり、ボランティア来所時には声をかけてもらい、相互訪問している他、合同で運動会を開催して交流を図ったり、一緒に遠足にも行っている。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にはなるべくご本人様に直接会うようにしている。その際、困っている事や不安などをご本人様からお話していただけるように努めている。その他、希望があれば面会や電話対応を行い、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の日頃の生活や生活等から考えられる行動や言動を、あらゆる角度から予測し、対応策と一緒に話し合うことで相互の不安を少しでも解消できるように努め、面会時には生活状況を詳しく報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際にはホームの機能や対象者について説明するのはもちろん、ご本人の状態やご家族の介護力に応じて、施設サービスや在宅サービス、インフォーマルなサービスについても紹介し、本人や御家族が選択できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活ペースを尊重しながら、本人を介護される一方の立場におかず、個々の有する能力に応じ、料理や掃除、洗濯物たたみ等を協力して頂く事で、互いに協力し支え合って生活する環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、良い事のみではなく、できなくなってきた事なども含めて、ご本人の状態や生活の様子を報告している。また、毎月初めに各担当職員が生活状況報告書を作成し送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望がない限り、面会者の制限もなく友人や近隣の方が気軽に訪問できるよう配慮している。また、ご本人の要望に応じ、馴染みのある場所に外出する機会を作ったり、自宅への訪問も行っている。	知人や友人、商店や行きつけの場所等と本人が関係を持ち続けられるように、実際に会いに行ったり来てもらったり、関係継続の場面を積極的に作っている。自宅への一時帰宅、大前神社への初詣なども柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に食して過ごし、皆で会話する時間を多く設けている。個別性に合わせて話をしたり、他の入居者が世話役になるなどの役割もあり、孤立する事なくその人の居場所ができるように配慮している。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者やご家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。近隣の施設への入所の場合には、相互に訪問し交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、暮らしの希望や意向を聞き取り、職員間で共有できるように努めている。訴えが困難な場合は、生活歴や日々の行動から本人本位に検討するように努めている。	居室にて利用者と向き合ったり、1対1の入浴介助の際に把握した本人の思いや意向を記録し、全職員が共有している。思いや暮らし方の希望等が明確に把握できない場合でも、日常の会話や、本人のことをよく知ってる人と、共に話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報シートを作成し、本人や家族はもちろん、介護支援専門員等からも情報収集を行い把握に努めている。その他にも、面会に来られた友人や親戚等からも、生活歴や趣味等を伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のスケジュールについては細かく定めず、本人の希望等を受け入れるようにしている。その1つ1つを受け入れることにより能力の把握に努めている。また、生活の様子を記録に残すことで、今できている事、できなくなった事を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、各入居者の課題とケアのあり方について話し合っている。また、ご本人やご家族の意見を取り入れる他、必要に応じて訪看NSや主治医、PT等に助言を頂いている。	月に1回の職員会議において、職員並びに医療関係者等の情報や気づき、アイデアを出し合い、利用者・家族の現状や意向を取り入れながら本人本位に検討している。短期では3か月、長期では6か月の設定期間になっているが、実情に即した臨機応変な介護計画の見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を通して日常の変化や生活の情報を共有している。毎月のスタッフ会議で話し合いを行い、対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎、行きたい場所への外出等、入居者のニーズに合わせて柔軟に対応している。誕生日には、本人の行きたい場所、やりたい事、食べたい物を伺い、個別で1日をかけ、できる限り希望に沿えるよう努めている。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア、通い慣れた床屋や商店街など、地域の人や場の力を借り、ご本人が楽しみを持って生活できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。また、特に希望がなければ、協力医療機関について説明し、日々の受診や緊急時等に適切な医療を受けられるように配慮している。	本人や家族が希望する医師による医療が受けられるよう支援しているが、本人と家族の同意と納得の上、法人母体の医療機関での受診が大半である。家族、職員間で日々の健康管理や医療面の情報共有は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回健康管理、健康相談など気軽に応じてくれる他、必要に応じて電話相談もしている。また、個別記録が閲覧できるようにしてあり、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人との面会の他、主治医や病棟看護師などと情報交換(現状把握)を行い、必要に応じて退院後の環境整備を行い、スムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化や終末期に向けた方針の確認を行う他、本人の状態悪化や、悪化が見込まれる際には、その都度ご本人、ご家族と話し合い、多方面から今後の方針を検討している。また、必要に応じて同グループ内にある介護老人福祉施設や他施設への紹介も行っている。	重度化した場合や終末期のあり方、その際の事業所の対応については、本人・家族、かかりつけ医等関係者との話し合いを繰り返し、意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。契約時に、重度化により対応が困難となった場合の具体例等を口頭で説明しているが、書面での提示は行っていない。	本人と家族等の安心と納得を得られるように、状況変化に応じた段階的な合意の必要性を鑑み、事業所として可能な範囲でのマニュアル作りに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常備しており、職員会議でも取り上げている。また、緊急時の連絡一覧表により、慌てずに対応できるように努めている。管理者は上級救命講習を受講し、その他の職員も普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアルの他、新入社員用・従業員用の防災の手引を作成している。また、消防計画を作成し年2回、避難訓練を実施している。火災通報設備を完備しており、ボタン1つで119番通報できるようにしている。	マニュアルにもとづき、全職員が勉強会を実施し、訓練を行っているが、夜間想定訓練はシミュレーションだけにとどまっている。民生委員を通し自治会の会議に防災計画等を提示し、地域に協力を依頼しているのが現状である。	自治会長会議での協力依頼をきっかけに、日常の暮らしにある当たり前の近所づきあいや関係づくりを丁寧にしていくこと、一緒に訓練を行うなどの取り組みに期待したい。

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しながら、各々の生活歴等に合わせた言葉かけに配慮しており、必要に応じて馴染みのある言葉で話かけている。個人情報に関する記録等は、外部へ持ち出しを禁じ、保管場所の施錠、外部への情報漏洩防止に取り組んでいる。接遇やプライバシー等の研修を実施し徹底を図っている。	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、接遇やプライバシーの研修を行いながら徹底し、確認している。個人情報に関する記録も厳重な管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パン食時には、ジャムの種類やトーストの有無等、本人に決めて頂いている他、入浴前には、できるだけ本人に衣類を準備して頂いている。また、外食時にも好きな物を選んで頂いたり、会話の中からも思いを汲み取る言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮した上で、個々の性格やペースを考慮しながら見守り・支援するように努めている。また、日々の生活が単調にならないように、外食や外出、ドライブ等を行い、少しでも変化のある生活ができるようにしている。また、今年から遠足を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があれば、随時散髪に出かけている。また、基本的にはその日に着る衣類等の選択は本人に任せたり、鏡の前に立ち身だしなみやおしゃれを忘れないよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みの把握に努め、味付けや献立を工夫している。職員は入居者と一緒と同じ物を食している。また、個々の能力に応じて料理や後片付け、テーブル拭き等を分担して行っている。	食材は外注しているが、利用者の好みに応じて買い物に出かけるなど臨機応変に対応している。利用者個々の力を活かしながら、職員と共に調理や後片付けを行っている。利用者と職員は、同じ食卓を囲んで会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を随時チェック・記録している。また、極端に摂取量に偏りが見られたり、栄養バランスが十分に確保できていない場合は、主治医に相談し、調理方法や加療について相談、助言を頂いている。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。自力では困難な場合は段階に応じた介助を行っている。夜間は義歯を洗浄剤に浸けたり、洗口液を使用し、口臭予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で、各々に合わせたトイレの声かけ、誘導を行っている。また、尿・便意がわからず失禁がみられる場合でも、必ず便座に座る習慣を作り、出来る限りオムツを使用せずトイレで排泄する支援に努めている。	トイレでの排泄やオムツを外した暮らしは、生きる意欲や自信の回復はもとより、身体機能の向上につながる大切な支援と認識しており、一人ひとりの排泄パターンをもとに、さりげない声かけや誘導により気持ちよく排泄するための工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で個々の排泄パターンを把握し、水分や乳製品の摂取により、薬に頼らない工夫をしている。また、体操や家事などの生活リハビリにより体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日職員と1対1で入浴できる体制をとっている。季節によって薔薇や柚子風呂を実施し、入浴が楽しめるようにしている。また、入浴を拒否される場合は、声かけの工夫や入浴したいタイミングを捉えて対応し、清拭・足浴により清潔を保っている。	利用者の習慣や多様な希望もできるだけ取り入れながら、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。入浴に対して負担感や抵抗感を感じている利用者には、声かけの工夫やタイミングに合わせた支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、生活状況に応じて休憩時間を設けている。1日のリズムを把握し、安心して生活が送れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱の中に最新の処方箋を保管しており、いつでも薬効や副作用が把握できるようにしている。また、配薬時にも確認できるよう、薬の袋に薬剤名、薬効について添付している。新しい薬が開始された場合には、症状の経過について記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存能力に合わせて、日常的に掃除や料理、洗濯物たたみ等、役割を見出している。誕生日には本人に行きたい場所や食べたい物等の希望を伺い、個別にて、できるだけ希望に沿った誕生日を過ごせるよう努めている。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は必ず外出・外食する機会を作っている。その他にも希望があれば、個別にドライブや散歩、買い物など臨機応変に対応している。また、遠方などで職員の対応が困難な場合は、ご家族に協力して頂き外出支援している。	その日の利用者の状態や本人の習慣、有する力、希望、季節や地域のその時々状況に応じて、臨機応変に外出を楽しめる支援に取り組んでいる。職員の対応が困難な場合でも、家族の協力のもと、本人が外出により生き生きと過ごせるような工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できない方が多く、金銭を持つことで入居者間のトラブルにつながる為、基本的には金庫で保管している。ただし、希望者には、ご家族の同意の上、小銭程度を管理して頂き、買い物の際にはご自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話をしたいとの訴えがあった場合には、時間をみて付き添いのもとで電話していただいている。外部からの電話も本人の状況で取り次いでいる。手紙については、改めて書くことはないものの、年末に本人の直筆で年賀状を書いて頂き、ご家族に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の生花を飾ったり、明るい日差しが入るよう天窓を2ヶ所設けている。また、茶の間には畳、掘りごたつがあり、家庭的な雰囲気となっている。廊下には行事等の写真を掲示し、各々が入居者同士やご家族と思い出話ができるよう配慮している。	天窓からの採光が明るいホールと掘りごたつのある和室が、家庭的な雰囲気を醸し出している。季節の生花や壁面に貼られた写真が、利用者・家族・職員との話題作りへと繋がっている。利用者と共に朝、夕2回の清掃により清潔を保持しながら居心地の良い場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースでは、洗濯物たたみをしながらかた話されたり、昼寝をされたりと個々が思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や好みの物を自由に持ち込んで頂き、各々が馴染みの物に囲まれ、居心地の良い空間で過ごせるよう支援している。	使い慣れた家具や写真、思いでの品々に囲まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮したしつらえになっている。利用者が、自分の家のように居心地良く暮らせるような生活感を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	門から玄関までは緩やかなスロープとなっている。全てバリアフリーとなっており、段差解消してある。また、トイレはわかりやすく表示し、迷わずに行けるよう配慮している。ドアは全て引き戸となっており、少しの力で開けられる。		